

植物と人とのかかわりー長浜さつきの会アンケートから学ぶ

谷村 節子 (社会人コース)

1、はじめに

植物は、家族の共通のとっつきやすさである。

コケ玉に出会って6年になる。「これはおもしろい」と作って、飾って、観察して、フリーマーケットに出店したりもしてきた。人のつながりができ、フィールドワークへと広がり、年々に面白さを感じている。

長浜さつきの会(盆栽愛好会)に入って6年でもある。7・80代が中心の会員さんへのアンケートにより、「植物と人とのかかわり」を調べてみた。

団塊世代の終りの生まれの私が、生涯学習にはまり、自分のあり方を問うものである時、身近な植物が様々のことを教えてくれ、その指針となるであろう。

2、研究の方法

調査対象；長浜さつきの会員

調査期間；平成24年9月15日～10月10日

標本数；19名

回収数；15名(回収率78.9%)

調査方法；郵送法

↑

3、調査のまとめと考察

盆栽の魅力とは、年代別で傾向がみられる。「5・60代」の人ではストレス解消や趣味として没頭できるとし、「70代」では世話をしたり育てる過程が楽しいとし、「80代」は季節を感じ楽しむことができるとする一方で、水やりや土いじり等良い運動になっていると回答している。更に盆栽歴で見ると、「30年未満」の人は、趣味として没頭できること、自然に対する感心が高まることを魅力としてあげているが、「30年以上」では育てるのが難しい植物を成長させる達成感等、育てるプロセスを楽しんでいる様子が伺える。

環境問題への感心では、「5・60代」の人は環境問題に関して非常に幅広く関心を示すが、「80代」では里山の荒廃や地球温暖化といった身近な問題に関心を示す。盆栽歴「30年未満」の人は、環境問題に関して非情に幅広く関心を示すが、「30年以上」ではその焦点が狭まりより身近な問題に目がいくようになる。

植物とのかかわりでは、多くの人が畑作や家庭菜園をされている。土地条件では、畑作や果樹栽培もされ、70代は庭木作業もされ、頼まれての剪定もあるようだ。

会の趣旨の緑の環境を護り育てることをされている。緑の環境を護る目は、広く地域社会へと向き、何より35年の会の継続を誇りに思う。

4、おわりに

家族の絆が大事。東日本大震災でも、絆を求め、絆が生へのもとである。陸前高田の一本松は枯れていた。モニュメントとして残すと言う。救われる人が多いのだと思う。

学びは大事。淡海生涯カレッジや、当支援士講座に感謝しつつ思う。

自然を観察すること。

自分で考えること。かつ、自由であること。心して、生活していきたい。